

第5回 真駒内駅前地区まちづくり地域協議会

会 議 記 録

1 開催概要

日 時：令和4年3月26日（土）

午前の部 10：00～12：00

夜間の部 18：30～20：30

※新型コロナウイルス感染症予防のため、時間を分けて意見交換を行いました。

場 所：まこまる 1階
（南区真駒内幸町2丁目2－2）

参 加 者：11名

事 務 局：札幌市まちづくり政策局都市計画部地域計画課調整担当課長	阿部賢
〃 調整担当係長	飯田健
〃 担当職員	牧田翔太
〃 担当職員	水木隆之

（運営支援 株式会社アド・ビューロー岩泉）

配布資料：資料1 会議次第

資料2 真駒内駅前地区まちづくり地域協議会名簿

資料3 会議資料

2 ワークショップの概要

■当日の主な流れ

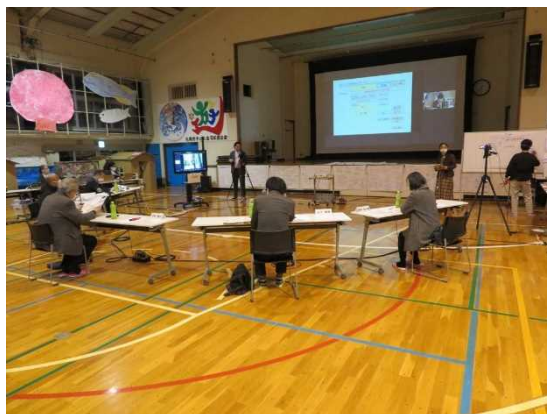
実施	実施日時	内容	協議会 参加人数
午前	令和4年3月26日 (土) 10:00~12:00	受付開始 ↓ 開会の挨拶 ・札幌市挨拶 ・ファシリテーター紹介 ・ファシリテーター自己紹介 ・本日の流れ、参加エチケットのお願い ↓ 事務局から報告 ・土地利用計画案に係る各調査結果について ・まちづくり策定後の流れ ↓ 事務局から話題提供① ・まちづくりを支える取り組みについて（景観、みどり） ↓ 事務局からの情報提供② ・まちづくりを支える取り組みについて （スマートコミュニティ、周辺地域への波及・展開、地域主体の持続的なまちづくり） ↓ ディスカッション ↓ 共有 ↓ 終了	5名
夜間	令和4年3月26日 (土) 18:30~20:30		6名

■開催の様子

午前の部



夜間の部



■午前の部の結果

□土地利用計画案に係る各調査結果について

- ・土地利用が先行したことで、多面的視点が必要であるはずのまちづくりが、歩行者・自動車動線のみに着目されるなど近視眼的にとらえられてしまった。今回の説明にあるような様々な視点に基づき、まちづくりを考えていくことが重要である。
- ・交流広場の充実を図ることが必要。「一年中使えるような空間」となることが望ましい。
- ・どのような案になろうと、長所や短所はある。「まちに大切なのは何か。」を考えていきたい。
- ・真駒内地域（広くは南区）全体の位置づけをふまえることが重要。
- ・駅直結案が一定の支持を得ているようだが、このまま結果を出すのは尚早ではないか。
- ・真駒内駅舎から地下や地上で人を渡すことが難しいのであれば、駅舎自体の建て替えは考えられないか。

□まちづくりを支える取り組みについて

○景観・みどり

○スマートコミュニティ

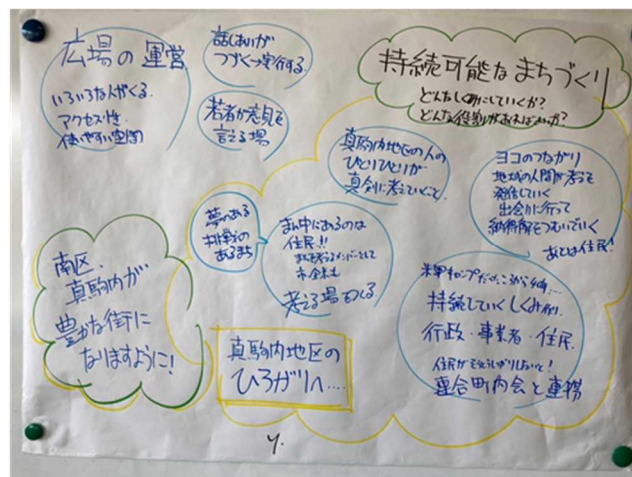
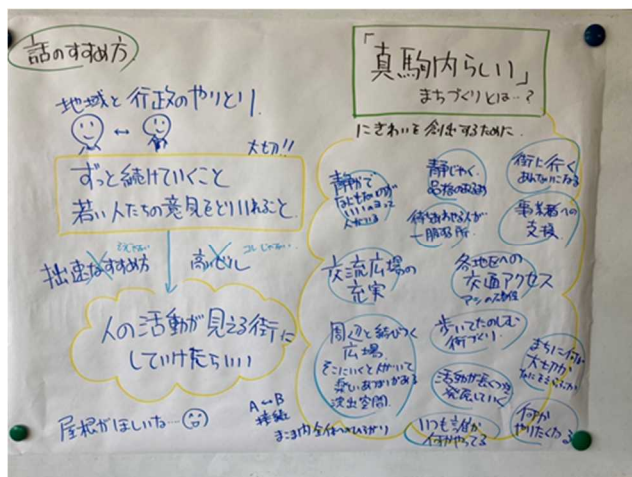
○周辺地域への波及・展開

○地域主体の持続的なまちづくり

◎【テーマ】

真駒内らしいにぎわいを創出するために

～まずは交流広場での活動の定着、そして広域への展開に向けて～



- ・みどりの保存とにぎわいの創出を両立することは難しく、矛盾（ギャップ）が生じる恐れがある。
「真駒内らしさ」を生かしたまちづくりを進めることが重要である。
- ・スマートコミュニティの促進により、より使いやすいまちづくりになると良い。
- ・南区の玄関口として、真駒内らしい「品格にあふれたにぎわい」が求められる。
- ・「いつも誰かが何かやっている」空間になるよう、人の集まりをいかに演出するかが重要である。
- ・駅前地区としてのニーズを考え、どのようなコンセプトを持ってまちづくりを進めるか。
- ・真駒内駅前地区が南区のターミナルステーションとなり、利用する人への地域資源（自然、文化、観光など）の情報発信拠点となるような仕組みを検討するべき。
- ・エリアマネジメントの取り組みを持続的に発展させるためには、「その場所がどうしたらより良く

なるか。」を常に考え続けていける「多様な主体（地域、行政、企業など）が持続的に話し合える場」を創り出すことが必要で、それを実現させるための「仕組みづくりや役割」を今後考えていく必要がある。

- 真駒内地域に住んでいる人たちに「いかに関心を持ってもらい、深めていけるか。」が重要である。今後についても住民意見を伺いつつ、検討を進める必要があるのではないかな。
- まちづくりとしての取り組みが持続することが重要である。一時的には、行政や事業者が主体となるかもしれないが、将来的には真駒内地域の住民が主体的に取り組んでいけるよう、しっかりとした土台作りをしていただきたい。
- 駅前の市民活動を持続させていくには、運営組織の人員の新陳代謝、広場のアクセス性と使いやすさ、沿道店舗との連携が重要である。

■夜間の部の結果

□土地利用計画案に係る各調査結果について

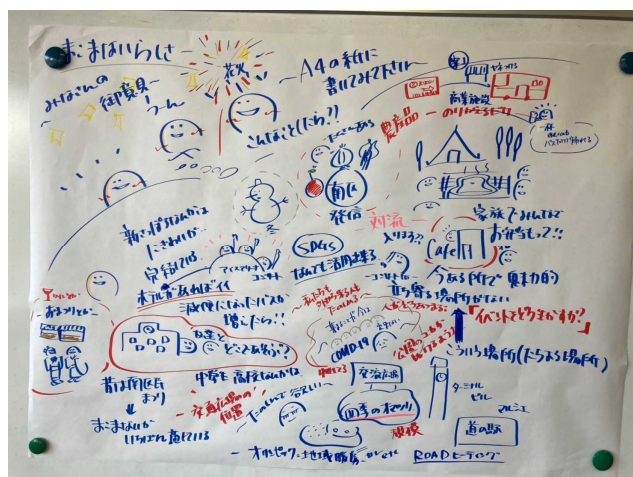
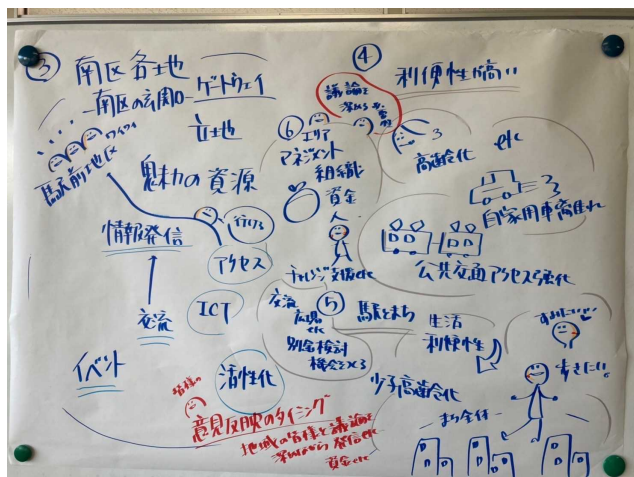
- ・交流広場と交通広場は「駅前地区として何を大事とするか。」を考え、適正な規模について、より検討を深めていくことが必要である。
- ・冬季の間も見据えた動線、広場を考えることが重要である。

□まちづくりを支える取り組みについて

- 景観・みどり
○スマートコミュニティ
○周辺地域への波及・展開
○地域主体の持続的なまちづくり

◎【テーマ】

真駒内らしいにぎわいを創出するために
～まずは交流広場での活動の定着、そして広域への展開に向けて～



- ・現存する真駒内のみどりは重要な景観資源であることから、「既存のみどりを活かしたまちづくり」を進める必要がある。
- ・駅前ににぎわいが生まれるのは重要で、そのにぎわいが公園や緑道などの「みどりを通じて真駒内に人が回遊」するようになれば良い。
- ・「冬でも快適なまちづくり」が重要である。極力外を経由しなくても、公共交通などにつながるような仕組みづくりが必要である。
- ・南区の一部では、公共交通の減少が問題となっている。「公共交通を利用する目的」を考えることで、人流が生まれ、発展していくのではないかな。
- ・南区は地域資源（自然、文化、観光など）が豊富であることから、「いかに情報発信し、知ってもらえるか」が重要である。
- ・「行けば用事が済む」ように、利便機能が集約されると人流の導入につながる。
- ・真駒内地域には多くの公園がある。より家族が楽しめるような空間になるよう、利活用を考える必要がある。
- ・交流広場を起点とした「使い続けられる仕組み」を考えることが重要で、ひいては、その取り組みを主導するエリアマネジメント組織づくりを行う必要がある。
- ・スマートコミュニティ（地域暖房）の促進により、環境に資する地域になれば良い。

- ・農産物の販売や地域資源の情報発信ができる広告スペースを設けることで、エリアマネジメントの促進に寄与し、持続的な活動を行っていけるのではないかな。